

はしかウイルスの歴史は新しかった わずか2500年前に出現と

今回の新型コロナウイルスの感染急拡大は、日本でも、世界でも見られるようにその感染拡大の中心地は人口密度の大きな都市に偏っている。これは人と人との接触密度によるものと考えられ、日本においても外出自粛、屋外の人口密集の8割減が呼びかけられ、その対策が功を奏した。

はしかウイルスの発生は2500万年前、このころにちょうど人口爆発が始まり、人と人が接触する機会が多くなったのではないだろうか。はしかウイルス自体はそのずっと前から存在していた可能性もあるが、まだ人口密度が低く感染伝播にはつながらなかったのではないだろうか。

話はシベリアの永久凍土に飛ぶが、この凍土の中には多くの種類のウイルスが閉じ込められているといわれている。このウイルスが解放されたとき、彼らが活動していた時とは環境が大きく変わり、感染伝播できるに十分な密度の宿主となる人間がそこにいる。そして、新たなパンデミックが起こる。そんな可能性を否定できる根拠は何もない。

3万年前の巨大ウイルスが人類を襲う？

シベリアの永久凍土に封印されていたウイルスが地球温暖化や開発によって息を吹き返す恐れも **デービッド・トリフノフ** News Week 2014年3月6日

シベリアの永久凍土層の奥深くで3年以上眠っていたウイルスの蘇生に成功した——3月3日、フランスの研究チームが米国科学アカデミー紀要(PNAS)にそんな発見を発表した。

日本経済新聞 2020.6.19

<p>はしか(麻疹)ウイルスが牛のウイルスから分かれて出現したのは約2500年前と推定されるとドイツのロベルト・コッホ研究所などの国際研究チームが19日付の米科学誌サイエンスに発表した。これまでは約1100年前に出現したとみられていたが、全遺伝情報(ゲノム)を詳細に解析して比較した結果、大幅にさかのぼる可能性が高まった。</p>	<h2>はしかウイルス 2500年前出現か</h2> <p>国際チーム発表、牛から分岐</p>
<p>はしか(麻疹)ウイルスが牛のウイルスから分かれて出現したのは約2500年前と推定されるとドイツのロベルト・コッホ研究所などの国際研究チームが19日付の米科学誌サイエンスに発表した。これまでは約1100年前に出現したとみられていたが、全遺伝情報(ゲノム)を詳細に解析して比較した結果、大幅にさかのぼる可能性が高まった。</p>	<p>はしかが人の間で持続的に感染、流行するのは25万~50万人以上の集団になってからという説がある。約2500年前はユーラシアなどで古代都市が形成された時期に当たり、はしかが出現する条件が整ったと考えられるという。</p>
<p>はしかは1本鎖のRNA(リボ核酸)ウイルスで、牛のウイルスの中では欧州やアフリカ、中近東、アジアで流行した牛痘が最も近い。牛痘は牛</p>	<p>が感染すると高熱や下痢などで死に至る。ワクチンの開発、普及により2011年に国連食糧農業機関(FAO)が撲滅を宣言した。</p> <p>研究チームは、はしかが牛痘との共通祖先から分かれた時期を推定するために、1912年にはしかで死亡した2歳女児の肺の標本をベルリン医学史博物館で見つけ、RNAのゲノムを解読することに成功。54年や60年に採取されたRNAのゲノムと、約2500年前に分かれて人を宿主にするようになったと結論付けた。</p>